

「新しい資本主義」に関するコメント

2023年3月30日  
仲田泰祐

## ポリシーミックス

- 経済成長率 = 潜在成長率 + 短期・中期ショックによる景気変動
  - 財政政策：潜在成長率の押し上げ、Automatic Stabilizerを通じた景気変動対応（特に金利下方制約下において）
  - 金融政策：景気変動対応
    - 金融政策も潜在成長率とは全く無関係ではないことには留意

## 「新しい資本主義」

- 1. 潜在成長率を上げる試み
- 2. 社会として望ましい価値観を促進する試み
  - この二つは必ずしも同一でないが必ずしも相互排他的でもない

# 「新しい資本主義」

- Modern Supply Side Economicsとの共通点
  - 減税と規制緩和による成長を目指したSupply Side Economicsと違い、Modern Supply Side Economicsは財政支出を用いて労働供給・労働生産性の向上を通じた成長、所得格差縮小、環境保護を目指す
  - 「新しい資本主義」で強調されているいくつかの項目（人的投資、スタートアップ加速、GX投資）はModern Supply Side Economicsで強調されている項目と整合的
  - 「新しい資本主義」はModern Supply Side Economicsよりも多くのAgendaに触れており、より総合的
  - Modern Supply Side Economicsに対する批判は「新しい資本主義」にも当てはまり得る
    - 実際に打たれる政策が意図した効果を生み出さない可能性
    - 政府の投資が民間の投資よりもリターンが低い可能性
      - Gramm and Solon (2022): <https://www.aei.org/op-eds/the-folly-of-modern-supply-side-economics/>
    - こういった批判は「新しい資本主義」に限らず財政政策全般に当てはまり得る

- 「新しい資本主義」の社会的インパクトを最大化するためには...
  - 具体的な施策一つ一つにどのような効果が期待されるかを提示
  - 具体的な施策一つ一つの事後検証
    - 期待されていた効果が実際にあったか
    - 可能な限り因果的効果を検証することが理想
  - 検証結果によって政策を臨機応変に調整
    - 効果の小さい政策に関しては縮小・撤廃を検討
    - 効果の大きい政策は継続・拡大を検討